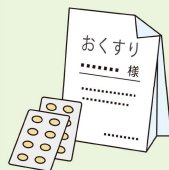


## ★薬との正しい付き合い方

### 1. 薬の説明文書をよく読みましょう

薬についている説明文書には、正しい使い方や注意事項が書かれています。必ずよく読んでから使用しましょう。



### 2. 薬を飲むタイミングを守りましょう

薬はそれぞれ決められたタイミングに飲まないとお効果が弱まったり、副作用が生じやすくなる場合があります。



**食前:** 食事の約1時間～30分前  
**食後:** 食事の後約30分以内  
**食間:** 食事と食事の間(食事の約2時間後)  
※食事中に飲むことはありません  
**就寝前:** 就寝する約30分前  
**頓服:** 発作時や症状がひどいとき

### 3. 薬の飲み忘れに注意しましょう

飲み忘れに気が付いたら、すぐ飲むようにしましょう。ただし、次の飲む時間が近づいている場合は、その分は飲まずに次回からいつものように飲むようにしましょう。なお、薬の種類によっては飲み忘れた時の対応が異なる場合がありますので、薬を受け取るときに確認しておきましょう。

### 4. 薬を飲む量や期間を守りましょう

薬は決められた量より多く飲んだからといってよく効くものではなく、副作用が現れる危険が高まります。また、症状が治まったからといって使用をやめると、**病気の再発**や**悪化**を招く恐れがあります。

自己判断せず、医師や薬剤師に相談しましょう。

### ～薬剤耐性菌の危険～

抗菌薬を自己判断で飲んだり飲まなかったりすると、抗菌薬が効かない、または効きにくい病原菌(**薬剤耐性菌**)が生まれやすくなります。薬剤耐性菌が増えると、これまでの治療薬では治すことが難しくなり、重症化して死亡にいたる恐れもあります。薬剤耐性菌を増やさないためにも、薬は決められたとおり最後まで飲み切りましょう。

川崎市HP「薬剤耐性(AMR)ってなあに?」



### 5. 勝手に錠剤を割ったり、カプセルを分解しない

薬はそれぞれ工夫され、適切な形状で作られています。自己判断で分解などしてしまうと、**適切な効果が得られなかったり、副作用が出やすくなるおそれがあります。**

### 6. 薬の飲み合わせに気をつけましょう

複数の医療機関に掛かっていると、薬の重複や薬の飲み合わせで不具合が起きることがあります。今飲んでる薬があれば、医師や薬剤師に必ず伝えましょう。その際、お薬手帳があると便利です。

### 7. 食品と薬の飲み合わせに気をつけましょう

一部の医薬品は、グレープフルーツジュースや納豆などの食品を食べないように説明を受けることがあります。これは、飲んでる薬の効果に悪影響が生じてしまうからです。

医師や薬剤師から必ず説明がありますので、しっかりと守ってください。



### 8. 薬を正しく保管しましょう

直射日光や高温多湿を避け、子供の手が届かない所に保管しましょう。誤飲等を防ぐためにも、薬以外のものと区別し、他の容器に入れ替えないことも大切です。

### 9. 薬を飲んで異常を感じたら

発疹・かゆみ・胃痛などの異常を感じたら、すぐに医師や薬剤師に相談しましょう。

薬の名前、飲んだ量・期間、症状を説明できるように！  
お薬手帳や薬も持って行きましょう



### 10. 古い薬は処分しましょう

有効期限を過ぎたものは未開封であっても捨てましょう。医療機関に掛かり、処方された薬で飲み残しがある場合には、薬局に相談しましょう。

処方された薬は、**決して他人にあげてはいけません。**

### 11. 薬の種類や量が減っても不安にならない

症状が改善した場合などに、医師が薬の種類や量を減らすこともあります。減ったからといって、不安になる必要はありません。

また、むやみに薬を欲しがらないことも大切です。

## ★市販薬の乱用で薬物依存症に！？

一般に市販されている薬でも、**一度に大量に使用するなどの不適切な使い方**をする事は、**薬物乱用**です。自分の意思では薬の使用をコントロールできない「**薬物依存症**」に陥る可能性があります。近年、市販薬の乱用による薬物依存症患者が増加傾向にあり、大きな問題となっています。心身の安全のため、薬を使う際は、目的外の使用をせずに、薬剤師や登録販売者の説明であったり、説明文書に書かれた使い方や注意事項を必ず守りましょう。



## ★危険です！薬の個人輸入

インターネット等を利用して海外から購入(個人輸入)した薬は、**日本の法律に基づく品質・安全性・有効性の確認がなされていません。**また、**偽造された薬**も多数確認されています。

### 個人輸入した薬の危険性

- 表示されている成分や含有量が異なる
- 有害な不純物等が含まれている
- 健康被害が生じても公的な救済制度の対象外・・・など



## ★副作用に注意しましょう！

副作用とは、例えばアナフィラキシーや肝機能障害のような、薬の望ましくない作用のことです。副作用が疑われたら、医師や薬剤師に相談しましょう。

PMDAのホームページでは、「患者向医薬品ガイド」で医薬品ごとに発生するおそれのある副作用を確認できます。また、PMDAでは医薬品に関する電話相談のほか、患者からの副作用報告を受け付けています。

副作用の確認はこちら [くすりの相談窓口](#)  
[くすりQ&Aはこちら](#) [患者副作用報告はこちら](#)

